

金子光晴

城市郎

井上ひさし

安西篤子

長部日出雄

児玉隆也

四谷シモン

吉村平吉

金井美恵子

小沢昭一

公園の為五郎

近藤啓太郎



吉行淳之介着流し対談

いんなあとりつぷ

読者のみなさまへ

この本をお読みになって、どのような感想をお持ちになりましたか。あなたの読後感を、ぜひお寄せください。また、あなたのお読みになりたい本をお知らせください。インナーブックスの企画の参考にさせていただきます。

なお、どの本にも、一字でも誤字や脱字がないようにつとめておりますが、もしお気づきの点がありましたら、お教えください。ご職業、ご年齢などもお書きそえいただければ、幸いに存じます。

株式会社 いんなあとりっぶ社
インナーブックス編集部

吉行淳之介着流し対談

昭和四十九年八月十五日第一刷
昭和五十年一月十六日第三刷

著者 吉行淳之介

発行者 大坪直行

発行所 株式会社 いんなあとりっぶ社

東京都港区麻布台一の九の三 郵便番号一〇六

電話(〇三)五八六一—八二二(代表)

郵便振替番号 東京一三五〇二四

印刷 株式会社 三陽社

製本 矢嶋製本株式会社

© Junnosuke Yoshiyuki, 1974

乱丁・落丁本はおとりかえいたしません。

0095-505017-0389

吉行淳之介着流し対談

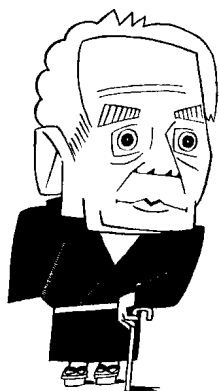
夢かうつつかうつつか夢か	金子光晴	5
消えなば消えん発禁本譚	城 市郎	33
街角のマリア孤児院のマリア	井上ひさし	49
パチンコと性的イメージ	安西篤子	69
歌の本と間違えられた受賞作	長部日出雄	83
浮かび上がらないことの幸福	児玉隆也	97

鉦物のような人が好き	四谷シモン	113
四十七番目のポンヒキ	吉村平吉	127
やさしさは距離で決まる	金井美恵子	141
愛の技術は本気二分嘘八分	小沢昭一	159
藪の中の想像力	公園の為五郎	173
変人奇人たちについての考察	近藤啓太郎	209



夢かうつつかうつつか夢か

金子光晴



かねこ・みつはる【詩人】

明治28年、愛知県生まれ。早稲田大学、慶応義塾大学、東京美術学校（現東京芸術大学）をいずれも中途退学し、イギリス、フランス、ベルギーに留学。その後、数回にわたってヨーロッパ各地や中国を放浪。ボードレール、ヴェルアーラン等の詩に触発された詩風は、日本の詩壇に一大転機を与えた。

「こがね虫」「鮫」「しし」等の詩集の他、多数の訳詩集、評論集がある。

肛門・癩病(レプラ)・細密画

金子 さて、耳のお準備を……(新調の補聴器を取り出す)。はて? 耳は、ぼくは、どっちが悪かったんだっけ。

吉行 (笑)。わたしは知りませんよ。よく聞こえる方へどうぞ。

金子 ああ、聞こえる。聞こえる。ほんとに、よく聞こえますよ……。今日は何のお話しを。

吉行 わたしがいろいろと伺いますから……。
金子 いや、どうも。あまり何も知らないですよ、ぼくは。

吉行 まあ、とりあえず、夢の話なんかどうでしょう。

金子 見ますよ。もう毎日見えますよ。睡眠

薬飲んで眠るでしょう。

吉行 はあ。

金子 睡眠薬飲みますとね、どういうわけか大変面白い夢を見るんです。うん、あんまり公開できないような夢をね。だけどね、ちょっと夢見てるときは、七時か八時ごろだから小便が溜る時刻でね、途中で起きちまう。だから、駄目なんですよ、続編を見ようと思っても。

吉行 続編ね、はあ。

金子 続きを楽しみにして、またころがるんだけど駄目だねえ。

吉行 続きは無理でも、別の夢は見ますか。

金子 いや、それで終わりですよ。八時から九時ごろになると、現実の問題が押し寄せてきますから。電話だとか、人がきたとか。

吉行 夢に色はついてますか。

金子 ええ、ついてますよ。まっ青な、ひどく青い海だとか。夢には色がないてえ人もいますが……うん、犬わんわんには色がないっていうでしょ。見てる世界が……。

吉行 ああ色盲だつて意味ですな。ええ……。

金子 あれはほんとですかね。

吉行 さあ。牛も色盲だつて説があるけれど、赤い布を見ると、怒るでしょう。もつとも、布が動くから刺激される、という説もあります。わたし、今日の対談が気にかかってまして、今朝へんな夢を見ました。対談に遅れそうなんで、タクシーに乗るわけです。

金子 はあん。

吉行 そうしますとね、友だちが一緒に乗つてて、そいつが小便しょうべんがしたくなつたとか糞が

したくなつたとかいって、しばしば車を降りてね、用を足してくる。おかげで十五分遅れちゃうわけです。

金子 ふむ。わたしも、そういうことはありますよ。これは夢じゃなくて現実に。対談にでかたりするときもそうだ。途中小便がしたくてどうしようもない。しかし、今はどこにでも便所がありますね、その辺のビルに。

吉行 そうですね。それで……さっき、何か公開できないような夢とおっしゃいましたけど……色っぽい夢ですか。

金子 色っぽいなんていうもんじゃない。もう、それはすっかりそのことなんですよ。

吉行 なるほど。

金子 それがおかしい。最初ヨーロッパへ行つたときの夢なんだけど、いまは飛行機でバ

ーッといっちゃうけど、そのころは長いこと船に乗らなくちゃならない。船で寝てるはずなのに草むらにいる。でねえ、草むら中にあれが立ってんです。スタッチュが、石像がね、いろいろの女神が、いっぱい立ってやがって、何か相談してんの。

吉行 ああ若いのを、やっちゃおうじゃあな
いかっていう相談ですか。

金子 そうなんですよ。それでね、ワーッと倒れかかってきて、ピーナスなんかがね、しかし、これが石像なのに、ほどよくやわらかい女神なんだからね、おかしいね。

吉行 ははあ。上になるんですか、女神は上から乗っかかってくるんですか。

金子 そうそう。ぼくはこうやってるの（上向いて犯されるしぐさ）。

吉行 ラクでいいですね（笑）。

金子 要するに、船中にゃ女がいないでしょ。切羽つまったような所だから、そんな夢みるんですよ。ぼくは、あるとき大々にマスターベーションをやるうと思って……。

吉行 大々的ですか。大々のマスターベーションというのは、どんなんですか（笑）。

金子 ヘ印がね、ぐわんとおっ立って。

吉行 ヘ印とはへのご印ですね。はあ。

金子 ピタピタと腹を叩くような奴ね。うんそれで、こう指を肛門に入れて。

吉行 ああ、肛門へね。なるほど。

金子 よくやるでしょ、みんな？

吉行 みんなよくやるかどうかは知りませんが（笑）。

金子 それをね、女の人にもやりなさいと、

感度がよくなるからと、うん。

吉行 四所責めですね、ふつう三所責めとい
っています、四所あるんですよね。今さつ
きの話ですが、その女神にやられたってのは
おいくつくらいときですか。

金子 歳？ はあ？ ありや二十一、二のこ
ろでしょう。マスターベーションが一番いい
のは、あの、青年時代でしょうねえ。

吉行 快感が強烈なのは、そうでしょうね。
若いころのマスターベーションは、まあ大々
的ですね。よく黒ん坊が凄いつていうけど、
ぼくのも天井まで飛んでバリッと音がした記
憶があります。淋病やってからは飛ばなくな
りましたけど。

金子 おれのはなくなっちゃうんだ。

吉行 え？

金子 どこいったかわからなくなっちゃう。

吉行 何がですか、それ？

金子 ドーンと飛び出したやつが、見つから
ねえの。

吉行 なるほど(笑)。

金子 だからね、うちのもんが捜すとまずい
と思つて……。

吉行 捜索したわけですね(笑)。

金子 こないだ稲垣(足穂)さんところへ行き
ましてね。

吉行 ええ、小実さん(田中小実昌)と。

金子 あの人、あのほうの大家だから、いろ
いろ聞いたんですがね、稲垣君の言うことは、
ぼくにはよく分からんのだ。文学の素材の一
端でなもんですか、あれは。

吉行 なんか、ぼくも、そんな感じがします。

金子 ぼくは、おかまのほうが先だったが。

吉行 少年愛という意味ですか。

金子 相手が男のこともあったんですよ。

吉行 そのとき金子さんはどっちの役だったですか。掘るほう、掘られるほう？

金子 ぼくは掘るほうで。

吉行 ああ、掘るほうで、ふんふん。

金子 彼は掘られるほう。

吉行 そりゃあ当然でしょう(笑)。

金子 それは舞鶴銀行の頭取の息子でね、京都にいたでしょう、ぼく。うん、大学の脇の吉田山に小松林があってね、そこでやったの。

吉行 小松林でね、粋なもんですねえ。

金子 そのころの京都はね、遊ぶてえば、みんなそういうことだったんだ。なかには兄妹

でやってたのもいましたよ。

吉行 兄妹ってのは面白いらしいですね。

金子 あのころはね、かぶってるの、まだ。酒の粕みたいのがついてんの。いっぱいつけてましたねえ。そいつをね、食べるのが好きな女がいたの。

吉行 スメグマですね、あれはウイスキーの肴にいいみたいですね(笑)。ブルー・チーズみたいなものでしょうね。

金子 それをペロペロなめるんですよ。

吉行 有望ですね、その子は。

金子 それで、おかまの始まりてえのはね、自分の肉体に対する愛着なんでしょう。だからね、ぼくは、子供のころから自分の肌だとかお尻なんかに興味を感じたですね。稲垣さんに話したら、そういうことはなさそうなん

だ。

吉行 おかまのほうが先というのは、そういう意味ですか。もう少し詳しくうかがいたいですか……。

金子 恥ずかしいねえ……もうおじいちゃんだから。おかまはねえ。

吉行 いえ、おかまいなく。

金子 ぼくはね、ごつい人は駄目なの。こういうこと言うのは何だけど、ぼくらね（と腕を出してみる）ほら、これは子供の手ですよ。若いときの手でしょう。

吉行 きれいな手ですねえ。皺もシミもない。

金子 女の子と同じでしょう。これは、静脈注射の痕ですよ。

吉行 青年の手ですね、これは。少年の手だな、稲垣さんに迫られなかったですか。

金子 何の話してんだ、おれは（笑）。まあ、

いいや、うん。自分のからだか、いとしいのだからね、しまいには、鏡もってね、トイレへ入って、こう、うんこが丸まって出てくるの眺めたりね、まだ痔じゃあなかったから、うんこのまわりに桜色の肉が押し出されてきてねえ、まあるく盛り上がってまわりに出てきて、きれいだったですよねえ、あれは。それで、うんこを撫でてみたり、あれは、すべつくくて、何というか、実にチャージングな感触ですよねえ。うんこというものは。

吉行 自分のものは、ウンコまで、いとしいと。

金子 ええ、楽しいの。とにかくね、触るてえことが好きですね、ぼくは。だからね、大人人なつてからもデパートやなんかへいっ

て、毛布やネルン中へ手突っこんだり。

吉行 はあ。これは、やっぱりかなり面白いね。触るだけならラクだからな(笑)。なるほど。

金子 文学もね、楽しみじゃああったが、こんなもので食おうとは思わなかった。

吉行 何で食おうと思ったんですか。

金子 おやじは建築やってみましたから、やっぱり建築家にしたかったんでしょうが、ぼくは学校が嫌いだったからね、これは無理。ぼくが本気でやろうと思っただけはお女郎屋くらいのものかな。しかし、そうも言えないねえ。うーん、弓やってみました、弓やっていたの。そこへ中根駒十郎、それから、うーん、足くじいた奴、うん、小野田忠平。知っていますか。

吉行 中根さんは、新潮社の人でしたね。小

野田……。

金子 忠平っていうの。

吉行 それは知りません。

金子 そうですか。それから水守の亀さん。

吉行 ああ、それは知っています。亀之助。

金子 そういう連中が、みんなくるんですよ。

筑土八幡の弓道場へ。それでね、いろいろ話を聞かされて、文学というものがこの世にあると、まあ、そういうわけなの。

吉行 だいぶおくてですね。どうもそういう方のほうが長もちするようですね。

金子 え？

吉行 ものを書くのに、長持ちします。ぼくなんかもそのくちなんです。

金子 あ、そうですか。ぼくはまた……。

吉行 ぼくのところは、おやじが、二十四、五で小説を書くのをやめちゃいましてね、本は全部たき売って、株屋になったのです。

金子 そうでしたか。

吉行 兜町へ事務所を持ちましてね、売り買いをやってたんです。ですから、家の中に文学的雰囲気するのは全然なかった。だから、文学ってものがあるってことは知らなかったんです。かなりおそくまで。その辺は似てます。

金子 あなたのお父さんのものはありませんでしたか。

吉行 ま、ごくすこし残ってますが。

金子 あなたのお父さんとは、立ち話し程度のおつき合いでしたがね、詩は見せてもらいましたよ、何か横野のあるね、洋野紙っての

があったでしょう、昔。今の大学ノートみたいな。ああいうのに、びっしり書いてあった。

吉行 ほう。そうですか。

金子 ありませんか、今。

吉行 ないです。

金子 ない。あれはねえ、大変なもんですよ。だいたいね、あそこまで書いてる人はなかったでしょう。当時、誰でもね、詩てえものはちよいと飾るてえか花をそえるてえか、そういうもんを書いてたんだが、そういうものじゃあないの。ちよいと凄い。そのものずばりなんだ。

吉行 ま、活字になった詩は、いくつか残ってるんですが……。

金子 さすがにね、ぼくらも、あつ大変なもんだと。